

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0470800194
法人名	(有)カナガミケアリンク
事業所名	花水木
所在地 (電話番号)	角田市角田字中島上170-21 (電 話) 0224-61-2777
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 19年 11月 8日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 1月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,500 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1月当たり 35,000 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	2 名	要介護2	2 名			
要介護3	5 名	要介護4	名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	86.5 歳	最低	79 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医)金上仁友会金上病院. 黒須歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

訪問時は玄関を入ると直ぐに民謡の大合唱に迎えられた。「毎日今頃の時間帯はこうなんですよ」と管理者は話してくれたが、歌に限らず、調理手伝い・テーブルのセッティングなど職員を手助けし、じっと座って食事を待つ入居者は少ない。箸も職員が差し出す箸入れから自分のものを選んでいく。ホームの課題として管理者は「地域の人達との気軽なお付き合い」を挙げており、職員は「入居者がホームでの暮らしを楽しみ、自分のペースでゆったりと和やかに日々を過ごしてもらいたい」と思いを話してくれた。まだまだ入居者自身でできることは多いとして、入居者が主になった献立作り・食事作りの機会も試みようとしている。通所介護支援、ショートステイの認可も受け実施しており、入居者をスムーズに受け入れている。「ゆったり」「楽しく」「共に寄り添う」の理念に添った、家族にとって頼もしいグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題事項について外部評価後全職員へ内容を伝達し改善策を話し合い、◇運営理念の掲示は玄関を入ると直ぐ目の前に掲示され、◇定期検診への体制作りは家族の協力で実施、◇刃物、洗剤等要注意品の保管への配慮は収納庫に保管の他、緊急時対応、職員のストレス解消策、市とのかかわり等も改善実施されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票を全職員に配布し、全項目についてそれぞれ自己評価を行い、後日全員で会議の中で話し合い管理者、ケアマネジャーがとりまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は現在まで6回実施済みであり市の担当者は毎回出席している。入居者家族、地区代表の出席も得て、ホームから報告・提案され、家族からの要望等話し合われている。その内容については、「花水木通信」に写真入りで掲載し周知している。尚、今月末にも7回目を予定している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日常的には面会時や運営推進会議・家族会議などの場で家族の意見・要望等について聞いている。管理者は前任者の退職により交替して1か月であるがホーム開設時からの職員であり、より家族との関係を密にし何でも話してもらえるように環境を整えたいとしている。入居者の金銭管理は、家族面会時に小遣い帳を見てもらい了承されているが、サインや印が不足であり、確実な確認について努力していただきたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し区長の協力を得て、地域のクリーン作戦や行事に入居者と共に参加している。近隣の保育園児と見学などで交流し、中学生の体験学習にも応じている。グループホームでの暮らしぶりや行事、時に献立の紹介、運営推進会議の開催、その後の結果報告など、定期的に発行している「花水木通信」を地域の人々や関係者に配布し理解、連携に向けて努力している。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム開設時に職員も一緒に作り上げた独自の理念である。地域の一員として「ゆつたり、楽しく、共に寄り添うケア」を掲げている。入居者や、地域のニーズ、事業所の状況変化によって理念の見直しを行なうとしているので期待したい。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念を玄関先の目につきやすい場所に掲示し、理念に添ったケアの具体化のため、全員参加での勉強会を実施し、入居者の状況変化に合わせたスタッフの共通目標を補足するなどして、実践面での理念の反映に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、区長の協力、支援をもらいながら、地域でのクリーン作戦に入居者と共に参加し、「花水木通信」の配布も行なっている。近隣保育園での運動会、遊戯会に招待されたり、ホームへの訪問もあるなど交流し、中学生の体験学習にも応じている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を内容の伝達を行ないつつ職員全員に配布し、一人ひとりがそれぞれ記入の上、全員参加の勉強会で話し合いとりまとめた。前回の外部評価での改善事項6項目については、すべて改善されており、外部評価について外部者からの気付きの機会として真摯に受けとめている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現在まで6回開催されており、グループホームからの報告、提案、家族からの要望など話し合われており、毎回開催日や会議での様子、内容などについて「花水木通信」に写真入りで掲載し周知もしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	角田市で2番目のグループホームであり、市担当者とはよく連絡を取り合い、通所介護やショートステイの認可手続きの際にも指導、支援をもらっている。運営推進会議には毎回出席してもらい助言をえるなどの他、包括支援センターでの研修にも参加している。尚、月に一度、市担当者との話し合いもお願いしたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時にはケア担当職員のみならずよく声がけし、暮らしぶりや健康状態を知らせている。遠方の家族には手紙、電話等で報告している。金銭管理については、紛失などのリスクも家族に伝え同意書ももらっているが、家族等のサインがない。	○	金銭管理の確認状況に不備がみられるので、書面での確実な報告や確認にさらに努力していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情について家族等からの提言は現在されていないが、家族会や面会時の機会をとらえて、意見、要望を話してもらえるように伝えている。「満足している。」「お任せします」と話される家族が多いのが悩みであると話している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者はいるが法人内の異動はない。新職員の採用、退職者のお知らせは「花水木通信」でお知らせし家族の不安に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は職員の段階に応じ、又希望による受講の機会があり、職員も情報の交換や、交流の機会としてとらえ参加に意欲的である。受講人数の制限もあり、思うに任せない面もあるようだが、より積極的な参加のため工夫したいとしている。受講後は復命書を書き、全員参加の会議で報告し情報、知識を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、県南ブロックでの研修参加もし、交流を図っている。同地域にある他グループホームとは開設時の研修体験以来交流が続いている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	4月から開始した通所介護利用者には見学、体験、食事などグループホームの入居者と一緒に過ごしてもらい、馴染んだ上での利用開始としている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩として敬愛する気持を忘れず、理念の中にも明記している「共に寄り添う」心で支え合い生活している。里芋の皮むき、ずんだ餅作り、干し柿、干いも作り、おやつ、障子貼りなど経験から教えられ、会話から学んでいる。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活を共にする中で話される過去の経験や思いを記録し、職員全員で共有し言語表現のしにくい方、耳の不自由な方の思いもボードを使って筆談したり、工夫して把握に努めている。入浴時などリラックスした時間帯はよく本音が話されるので、特に大切な時間として職員は意識している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1度入居者の希望や意向をモニタリングし、家族には面会時や電話で相談し要望を聞き、介護計画に反映させている。介護計画作成後は、モニタリングの結果と介護計画を一緒に添えて家族に渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状、入居者の状態に余り変化がないので、3か月に1度介護計画の見直しをしている。1か月に1度全職員でモニタリングを実施し、ケア担当者のみならず全員でその内容を検討し、より本人本位の介護計画の見直しにつなげている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	新制度の認可を受けて本年4月から通所介護、11月からショートステイを実施している。通所利用者家族の希望に応じ急な時間延長や、不意に一人で訪れる近隣の認知症高齢者への食事を提供したりもしている。自宅への外泊や家族、兄弟との個別の温泉旅行などにも入居者は出掛けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族の理解を得て主治医を協力病院の医師に変更し、急変時や夜間での対応も含め受診の支援を行っている。受診の際には「受診連絡帳」に記録し、情報提供をするなど密に連絡を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けたホームの指針作りや家族との話し合いは行っていない。ホームでは医療行為を伴わないのであればホームでの対応は当たり前のこととしてとらえており、3日前まで対応した事例はある。	○	退職に伴う管理者の交代もあり、重度化、終末期の体制作り、家族への対応、提案は少し時間が必要かと見受けたが、まず職員との話し合いから始めて家族にも不安を与えないよう、早期の体制づくりを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者と日常生活を共にする上で職員は、名前の呼び方、声のトーン、トイレ誘導時の声かけなどに十分に配慮し、常に敬意を持ち忘れず支援している。個人情報類の保管には細心の注意を払ってのぞみ、全体会議の都度全員で意識合わせを行なっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事時間、食事場所、入浴など入居者一人ひとりのペースで生活できるように支援している。集団の生活ではあるが時に個別に出掛けたい希望や支援して欲しい気配が感じられた時は、その方だけの時間を作り対応するなど、本人の求めることに「駄目はない」という意識を持って全員が取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、おしぼりの準備、食卓のセット、後片付けなど活動的で、じっと座って待つ入居者は少ない。入居者同士の会話もとても活発で、いたわり合い譲り合う様子はほほえましい。一見して分らないが、刻み、おかゆ、量など状態に合わせて手を加え提供されている。ホームでは入居者が主になった献立作り、食事作りの機会も試みようとしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	木曜日を除き毎日3時過ぎから夕食前までに、入浴への支援を行っている。夜間帯での入浴を希望する方は現在いない。気の合う同士と一緒に入ったり、職員を一人占めできる楽しいひとときとして喜んでおり、拒否する方はいない。週に1度体重測定を実施し、体調管理にも努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室のみでなくホールなど共用空間の掃除、モップがけ、雑巾がけ、窓拭き、調理、ドライブ、散歩、買い物、ハーモニカの演奏と、入居者一人ひとりが役割と楽しみをもち、支援されながらいきいきと生活している。尚、さらに楽しみが増えるよう支援したいとしているので期待したい。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、ドライブ、馴染みの理容院、美容院に出掛ける入居者もいる。区長を通して地域でのイベントや活動にもできるだけ参加し、個別な外出希望にも応じている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵はかけず自由に出入りできている。一人で出掛けてしまう入居者もいるが、外出傾向を把握しており目立たぬように付き添い、又、近所の方も声をかけ見守ってくれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間での災害も想定し避難訓練を実施し、近くにある同系列法人の社員寮の方にも訓練に参加してもらったり協力を働き掛けている。しかし現在の管理者による避難訓練が未実施であり、災害用食料品等の備蓄はまだなされていない。	○	11月末に運営推進会議の開催を予定し、この中で現管理者による避難訓練について提案し、実施しようと準備中である。その際には近隣の方々の協力、支援もいただけるように働き掛けをすとしていたので、期待したい。また、備蓄についても検討していただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾病などによるカロリー制限や水分制限のある入居者はいない。チェック表に食事、水分の摂取状況を記し、不足のみられる入居者には個別に補給している。尚、一人ひとりの状態に合わせた献立作りの工夫もお願いしたい。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が毎日モップがけ、雑巾がけもしているという共用空間は、自然光がさしこみ、明るく清潔である。室内の換気も窓を開けて行ない、臭気や空気のよどみはない。職員が声がけするトーンもやさしく、入居者は居間に集ってお喋りし、昼食の用意も手伝いながら仲間が吹くハーモニカに合わせて次々に歌いだしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の段階から家族には入居者にとって馴染みの品に囲まれて暮らすことの意味を話し、相談もしながら箆笥、布団等を持ちこんでもらっている。帰宅願望が強く持ち込み品の少ない部屋もみられたが、家族写真を飾ったり、その人に合わせ工夫している。		